

古里の文化受け継ぐ

柳橋歌舞伎保存会が指導 奥深さ体験

◆◆民報厚生文化賞の第四回の受賞団体となった郡山市の御館中は、柳橋(やなぎはし)歌舞伎の指導を受け、地域の貴重な伝統文化の継承に取り組んでいる。

指して練習や準備に追われてきた。「役者・真方」「舞台・効果」「化粧」「解説・記録」「音楽・伴奏」の五コースに分かれ、今年五月から約二時間の練習を週二回行ってきた。

◆◆同校では総合学習の時間を活用して、平成十七年から全校生が歌舞伎を学習している。九月の柳橋歌舞伎定期公演への賛助出演と、十月の校内文化祭「みため祭」での発表を目的の儀式寿式三番舞

(ことぶきしきさんば そう)、「白浪五人男」の演目を仕上げた。音楽・伴奏コースは、市内在住の三味線藤本流師範・藤本秀建さんが講師を務めた。英隆さんは「今年一番の出来だった」、大吉さんは「子ども



「白浪五人男」の練習風景



本番前の役者に化粧を施す生徒(左)

ちの目に見える成長がうれしかった、藤本さんは「(舞台の成功は)子どもたちの努力のたまもの」とそれぞれ思いを語る。真方で、役者に舞台に出る間合いなどを知らせる「つけ」を務めた根本侑衣子さん(三年)は「保存会の人丁寧

に指導してくださったおかげで本番も落ち着いて臨めた。三年目まで歌舞伎の奥深さを知ることができましたと目を輝かせていた。

審査評

富田孝志

(民報厚生文化事業団理事・県文化振興事業団理事長)



御館中は総合的な学習の時間に生徒全員が江戸時代から続く伝統の歌舞伎を学んでいます。コース別に学習するだけでなく、校内祭をはじめ、県芸術祭開幕式典や生涯学習フェスティバル閉会式など県内各地で多くの公演を行いました。

「人前での発表に自信がついた」「学校生活全般にわたる切磋琢磨(せつさたくま)するようになった」「将来も歌舞伎の上演に参加していきたい」など、生徒の言葉から

地域と学校 協力の成果

は自分や地域への誇りと郷土愛がはぐくまれていることが分かります。生徒たちの生き方に良い影響を及ぼすとともに地域の基盤づくりになっていくに違いありません。まさに地域と学校が協力して行ってきた教育活動の成果だと思います。

受賞を機に一層活動が充実し、良い形で継承が続いていくよう期待しています。

民報厚生文化賞 審査員

富田孝志(事業団理事、県文化振興事業団理事長)阿部正(事業団理事、福島学院大学長)花田昂(事業団理事長、福島民報社取締役相談役)佐藤晴雄(事業団評議員、福島民報社常務・編集主幹)

これまでの地域の方々、保護者のご協力に感謝するとともに、子どもたちのがんばりの賜です。

平成22年11月8日付

福島民報に掲載